

Canon

VL

VL-2



35 mm CANON CAMERA

キヤノンカメラおよびキヤノンレンズは、高度に合理化されたキヤノンの工場で、材料から製品に至るまでの一貫作業によって製造されています。しかも、その工程中には数十回に及ぶ機構的、光学的および電氣的検査が行われ、品質の向上と均一化に最大の努力が払われております。また、これらの検査成績は製品ごとにカードに記入され、製品の品質向上の資料あるいはお問い合わせや修理業務の資料として整理保管され、キヤノン製品を自信をもってお勧めすることのできる基礎となっております。

キヤノンカメラはまた五カ年間品質保証付になっており、お買い上げ後保証登録をされた方には普通の取り扱いによって生じた自然故障の場合、お買い上げ後五カ年間無償で修理並びに部品交換のサービスをいたします。

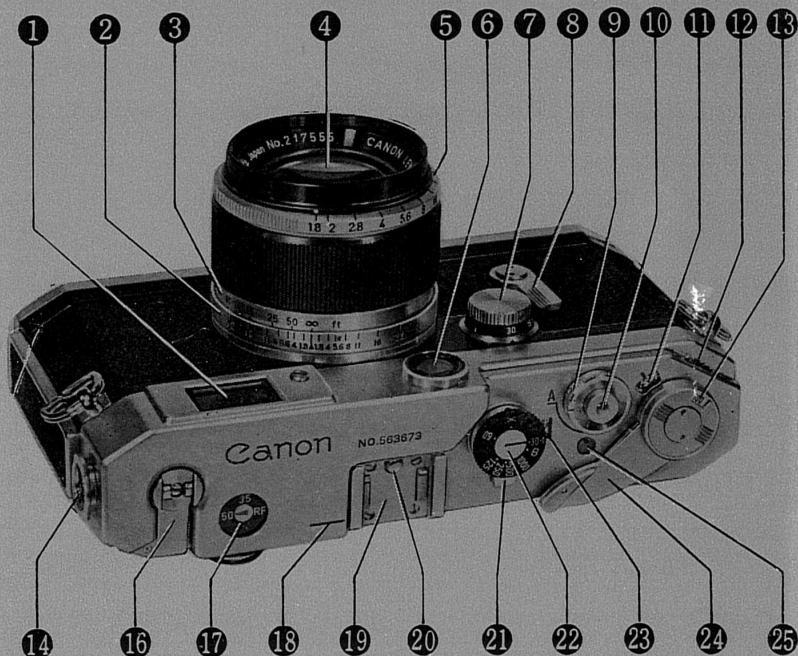
保証のサービスは保証証書の御提示によって行いますから、添付登録申込用紙によって御登録の上、保証証書をお受け取りおき下さい。なお保証期限の経過後若しくは保証適用外の故障については実費で御修理申し上げます。

キヤノンにはお買い上げと同時に自動的に発効する盗難保険がついております。



CANON CAMERA CO., INC. Tokyo, Japan

本 社 ・ 工 場 全 景



model VL

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| ① レンジ・ビュー
ファインダー窓…………… 9 | ⑮ 巻き戻しノブ止めレバー
(VL-2) …………… 21 |
| ② 被写界深度目盛…………… 12 | ⑯ 巻き戻しクランク (VL) …… 21 |
| ③ 距離目盛…………… 12 | 巻き戻しノブ (VL-2) …… 18, 21 |
| ④ キヤノンレンズ…………… 11, 26 | ⑰ ビューファインダー指標 10 |
| ⑤ 絞り目盛…………… 11 | ⑱ フィルム位置マーク…………… 12 |
| ⑥ レンジファインダー窓… 9 | ⑲ アクセサリークリップ… 10 |
| ⑦ 低速シャッターダイヤル 8 | ⑳ パララックス矯正
連動ピン…………… 10 |
| ⑧ セルフタイマー…………… 25 | ㉑ 同調セレクターレバー… 23 |
| ⑨ 巻き戻しリング… 5, 21, 27 | ㉒ 高速シャッターダイヤル 7 |
| ⑩ シャッターボタン…………… 6 | ㉓ 同調セレクター…………… 23 |
| ⑪ フィルム枚数表示窓… 6, 19 | ㉔ 巻き上げレバー…………… 5 |
| ⑫ フィルム枚数合わせ盤… 19 | ㉕ フィルム巻き戻し指標… 21 |
| ⑬ フィルムタイプ表示窓… 20 | |
| ⑭ フラッシュユニット
直結ソケット…………… 23 | |

最後のページにはカメラの裏面よりの説明写真があります

キヤノン VL の特長

1. メタル シャッター カーテン(金属幕)の採用

シャッター幕は極めて薄いステンレススチールベルトに特殊黒色表面処理を施した全金属性で、永久的使用に耐え、完全な不燃性により幕面に太陽を結像させるような不注意な取り扱いにも安全です。また寒暖や湿気の影響を受けず、極寒地、極熱多湿の地での使用にも何等の不安、変質のおそれがありません。

2. 特殊銀合金半透鏡を持つ明るいレンジ・ビューファインダー

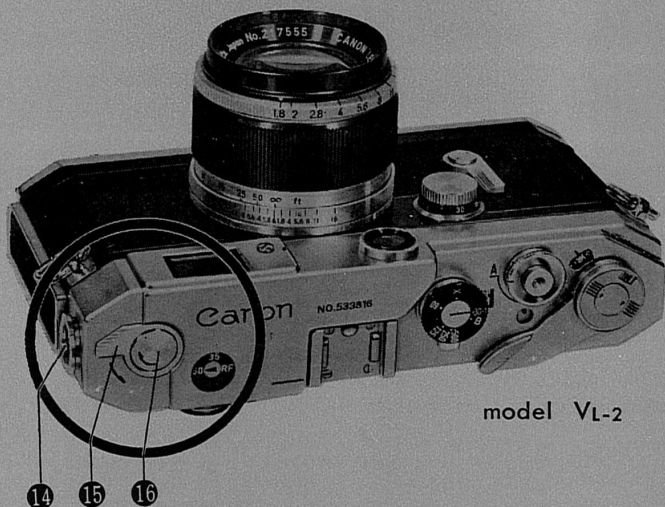
レンジ・ビューファインダーの半透鏡は、独特の研究による銀合金膜で、従来光学的性能の良いのにかかわらず、耐蝕性を欠くために実用されなかった銀膜の欠点を完全に解決しています。金膜に比して光の吸収が3分の1で極めて明るく、色調がニュートラルで不自然の着色がありませんから、カラー撮影にも好適です。しかも透過光と反射光とのコントラストが強く距離計の精度を最大限に発揮できます。

3. 独特のファインダーシステムと連動パララックス矯正機構

レンジ・ビューファインダーは35mmレンズ用のファインダー距離計、50mmレンズ用のファインダー距離計および望遠距離計用の3段に切り換え使用され、望遠距離計の場合には、更に別にパララックス連動ファインダーを併用することによって、ピント合わせの際自動的にパララックスの矯正が行われるようになっています。

● キヤノン VL-2

キヤノン VL-2はVLの姉妹機で、シャッターの高速スピードが1/500秒であることと、フィルムの巻き戻しにノブを用いることのほかはキヤノン VL と何等変わりありません。



4. フラッシュ同調装置

調節が簡単で、同調セレクターを使用バルブ（又はスピードライト）に合わせておくだけで、各シャッタースピードに応じて自動的に発光時期が調節されて完全なフラッシュ同調が出来ます。

5. セルフタイマー

独特の機構でシャッターボタンを普通撮影と同様に押すことによって始動し、誤用のおそれがありません。

6. 専用マガジン

専用マガジンが付属していますから、日中装填用パトローネ入りフィルムのほか、暗室装填用フィルムの使用も自由です。

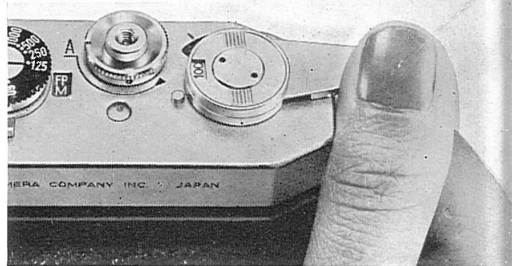
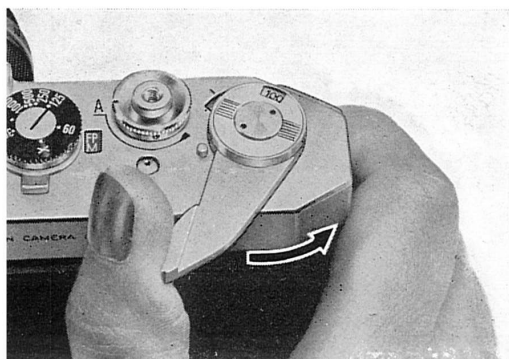
7. シャッターボタンの安全装置

安全装置が完備していますから、不用意な二重露出はもちろん、フィルムのカラ送り、早押しによるフィルムの無駄、カラ押しによってチャンスを逃がすことなどが防げます。

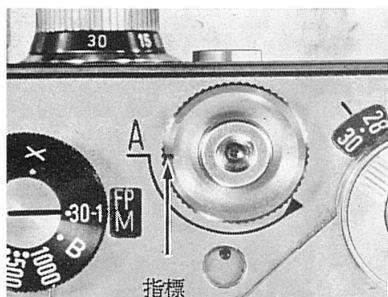
目次	フィルムとシャッターの巻き上げ	5
	シャッターの調節	7
	ピントの調節	9
	レンズの操作	11
	キヤノンの構え方	15
	撮影の手順	16
	フィルムの装填	17
	フィルムの巻き戻し	21
	フラッシュ同調	23
	セルフタイマー	25
	レンズの交換	26
	二重露出	27
	簡易露出表	28
	専用マガジンとフィルムの装め方	29
	カメラの保存手入れ	31

フィルムとシャッターの巻き上げ

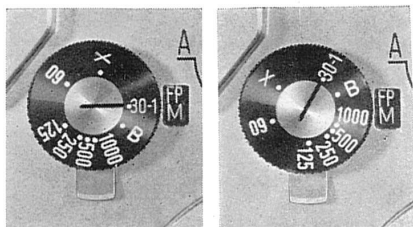
巻き上げレバーの端に指をかけて矢印の方向に止まる場所まで回すとフィルムが1コマ分送られ、同時にシャッターが巻き上げられます。



- 巻き上げは巻き戻しリングの指標がAの位置にないと完全に行われません。
- 巻き上げを済ませたレバーは自動的に戻りますが、畳み込み位置よりも少し手前で止まります。巻き上げはこの位置から行ってさしつかえありません。用のないときは元の位置に畳み込んでおきます。
- レバーは小刻みの繰り返し操作でも巻き上げられます。その際はレバーが動かなくなったときに巻き上げ完了です。



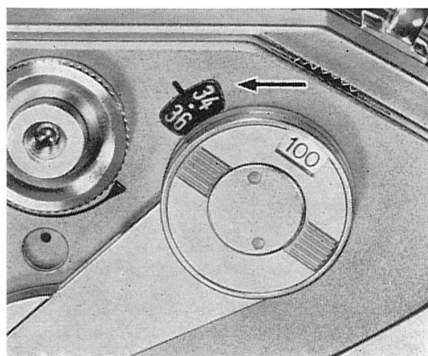
シャッターが巻き上げられている場合は、A 図のようにダイヤルの指標が右を向き、シャッターが戻った場合は、B 図のように上に向くので巻き上げ済みかどうかわかります。



A

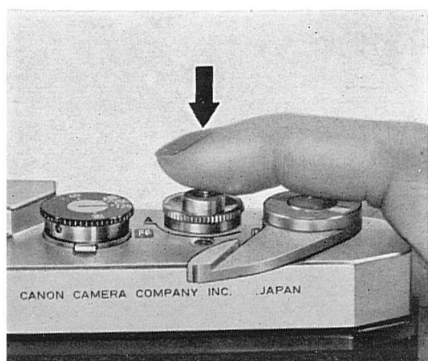
B

フィルム枚数表示 フィルムが1コマ巻き上げられるごとに、フィルム枚数表示窓の表示が1目盛ずつ動いてフィルムの残りの枚数を示します。



シャッターボタン を押しとシャッターが作用した後、再び次の巻き上げができるようになります。

シャッターボタン安全装置
シャッターボタンには安全装置があって、巻き上げが完全にできていないと押ししても動きません。これによって二重露出を防ぎまた早押しによるフィルムの無駄を防げます。



フィルム装填後第1回目の巻き上げのときだけは1回のレバー操作で巻き上げが完了しないこともありますから、念のため更に1回レバーを止まるところまで巻き直して下さい。

シャッターの調節

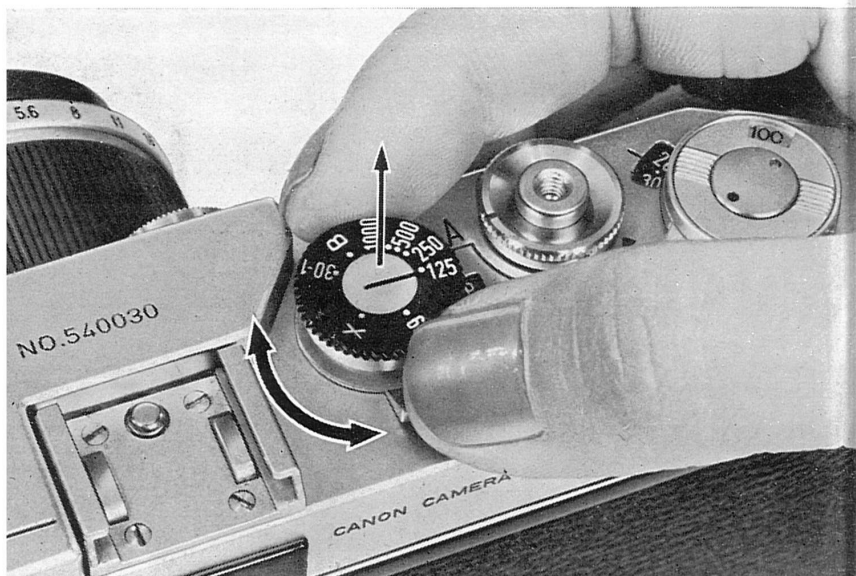
シャッターは1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/15, 1/30, 1/60, 1/125, 1/250, 1/500, 1/1000秒の秒時およびB(バルブ), T(タイム)に調節することができます。調節の各秒時は順次2倍に変化する系列になっています。従ってレンズの絞りと関連してその調節をするのに便利です。

ダイヤルの数字は何分の1秒という場合の分母を示します。

●VL-2は最高速が1/500秒になっています。

高速シャッターダイヤルは1/30秒より早い秒時およびBの調節をするもので、その調節をするには、ダイヤルをわずかに引き上げて回し、必要な目盛を指標に合わせて、元の位置に落ち込ませます。目盛の中間位置は使用できません。高速シャッターを用いる場合は低速シャッターダイヤルは30の赤目盛にセットしておきます。

1/1000 秒のときだけはダイヤルが、ほかのスピードの場合と違って半分しか落ち込みません。高速ダイヤルはいずれの方向に回してもかまいません。



低速シャッターダイヤルは $1/15 \sim 1$ 秒および T の調節をするもので、これを回して指標を必要な目盛に合わせます。低速シャッターを用いる場合、高速シャッターダイヤルは必ず 30-1 の赤目盛にセットしておかねばなりません。

B (バルブ) 高速シャッターダイヤルを B に合わせたとき (低速シャッターダイヤルは 30) は、シャッターボタンを押している間、シャッターが開いていますから 1 秒以上の露出に用います。

T (タイム) 低速シャッターダイヤルを T に合わせて (高速シャッターダイヤルは 30-1) ボタンを押すとシャッターが開いたままになりますから、所望の露出後、低速シャッターダイヤルを 1 秒の目盛の方へ静かに回してシャッターを閉じます。レンズシャッターと違ってボタンを再度押しても閉じません。

X 目盛 高速シャッターダイヤルにある X の目盛はスピードライト (ストロボフラッシュ) の同調に使用するものです。(フラッシュ同調の項をご覧ください。)

低速シャッターダイヤルは $1/8 \sim 1$ 秒の間ならば目盛の間でも使えないことはありませんが、クリックストップもかかりませんから、お勧めできません。

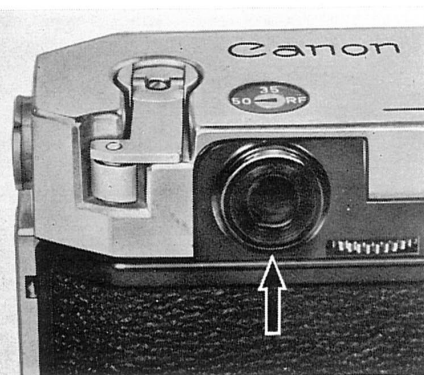


ピントの調節

レンズには無限遠にピントを合わせた位置でレンズを止めるストッパーが付いていますから、これを押して止めをはずしながら調節胴を回します。調節胴を回すとレンズが進退し、レンジファインダーに連動してピントの調節ができます。レンズの種類によってはストッパーのないものもあり、その場合は直ちに調節胴を回します。



レンジ・ビューファインダー
レンジ・ビューファインダー覗き窓を覗きながらピント調節をすると、四角な視野の中央やや明るい円形輪廓内で、被写体の二つの像が重なったり離れたりします、二重像が完全に合致したとき、レンズはその被写体にピントが合います。四角な視野はその際フィルムに写し込むことのできる画界を示します。



二重像を合わせるには主被写体の像が、中央の円形輪廓の中心に見えるようにします。特に近距離被写体に対しては大切です。



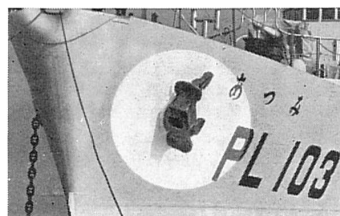
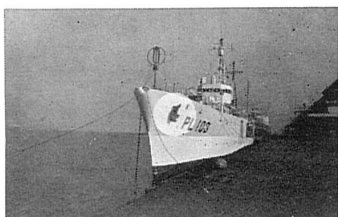
ピントが合っていないとき



ピントが合っているとき

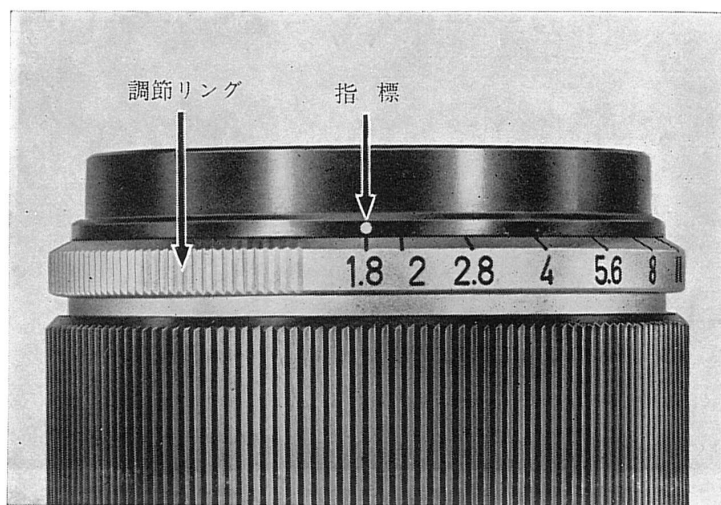
レンジ・ビューファインダーセレクトターを右または左に回すと像の倍率が変わり、指標が 35, 50, RF のいずれかを示します。

いずれの場合でもピント調節はできますが、35または50のときはピント合わせのほか四角の視界全体がそれぞれ 35 mm レンズまたは 50 mm レンズ用の画界を示し、またRFのときはレンジファインダー専用になります。35あるいは50の場合でもレンジファインダーはそれぞれのレンズに対して十分な精度を持っていますから使用レンズに応じて一度セレクトターをセットしておけば同一レンズには撮影の都度これを切り換える手数は不要です



パララックス矯正連動ピン レンジファインダーにはパララックス矯正ピンが連動していてアクセサリクリップにパララックス連動ファインダーを取り付けておくと、自動的にそのパララックスの矯正ができます。

レンズの操作



レンズの絞り目盛 レンズの絞りはフィルムに達する光の量の調節や被写界深度の調節をするもので、調節リングを回して適当な目盛を指標に合わせます。

絞りはその数値が大きくなるに従って、レンズが暗くなり、目盛の一段ごとに、明るさが半減するようになっています。従って絞りを1目盛小さくしたときは露出時間を倍にし、2目盛小さくしたときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の間も用いることができます。レンズによっては最大口径の絞り値だけは、次段の絞り値との間に、必ずしも明るさが半減する関係になっていないものがあります。シャッタースピードと絞り目盛とをきめるには、露出計や露出表を用いると便利です。

絞り値	1.2	1.5	1.8	2.0	2.8	(3.5)	4.0	5.6	8.0	11	16
露出比率	0.36	0.56	0.8	1	2	(3)	4	8	16	32	64

等間隔目盛 絞りの目盛は調節リングの回転角が等間隔になるように目盛っていますから、絞り目盛の間も用いる際でも容易に適正な調節ができます。

距離目盛 はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。キヤノンではレンジ・ビューファインダーでピントを合わせますから、普通の撮影では、必ずしも必要はありませんが、次に述べる被写界深度を知る場合や赤外撮影の場合に必要になります。



特殊の場合レンジ・ビューファインダーによらないでピントを合わせるには、被写体までの距離を実測して距離目盛を距離指標に合わせます。その際の実測距離はフィルム面に一致した位置にあるフィルム位置マークから測ります。

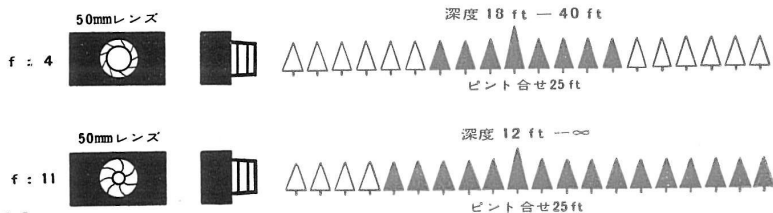
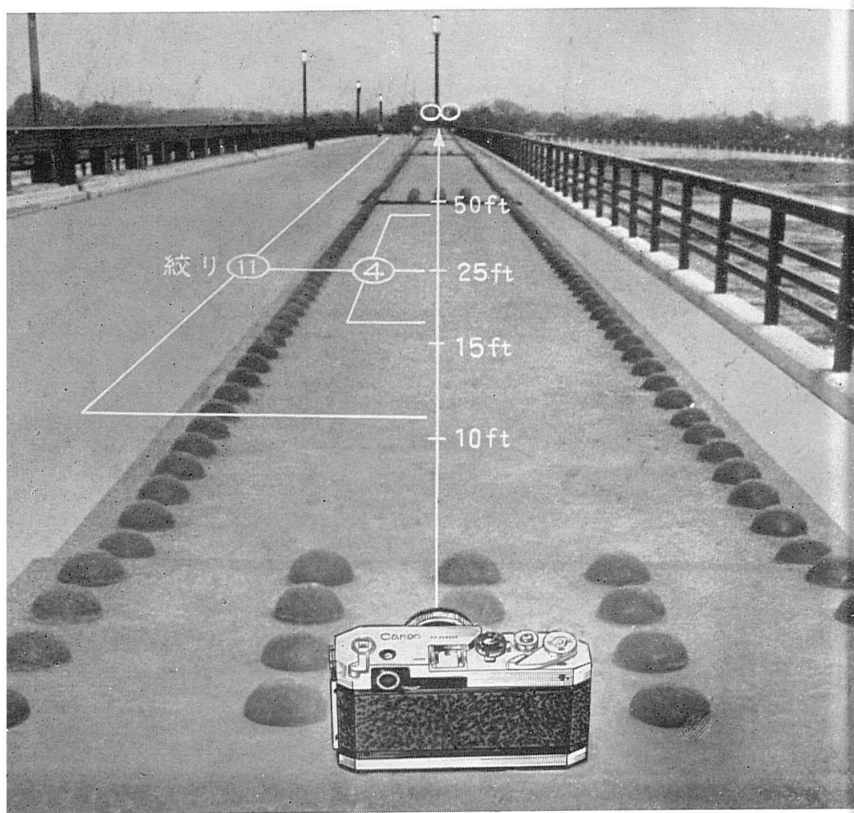
被写界深度目盛 一つの被写体にピントを合わせたとき、その前後でなお鮮明に写る範囲を示すもので、距離目盛と関連しています。これを使用するには、たとえば 50mm レンズで 25ft の距離にある被写体にピントを合わせたとき、 $f:4$ の絞りを使うとすれば、距離指標の両側で一對の 4 の目盛の示す距離すなわち約 18 ft と 40 ft とを読みとります。

この間にあるものは鮮明に写るわけです。同様にして $f:11$ に絞れば 12 ft から ∞ まで鮮明に写ることがわかります。

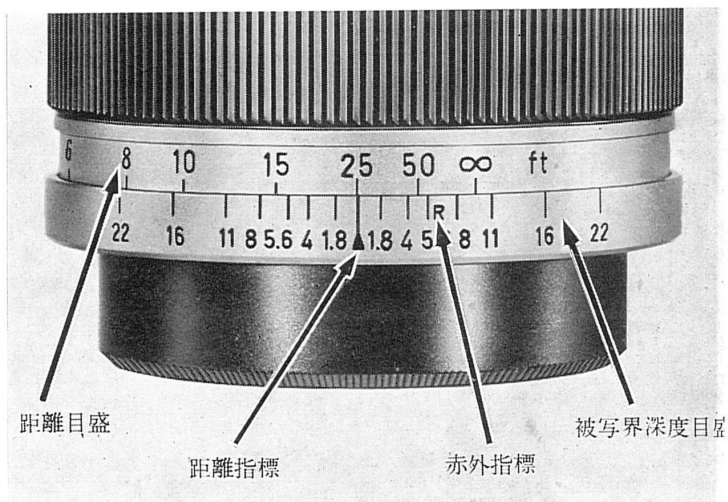


被写界深度はレンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

シャッターダイヤルは目盛の中間が使えませんが、絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから、露出を厳格に考える場合は、シャッター速度を先にきめ、これに応じて絞りを加減することが最も合理的となります。



赤外指標 (赤外マーク) 赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれるので、修正を要します。レンジ・ビューファインダーで普通にピントを合わせた後、まず距離指標で距離目盛を読み、その読み目盛を赤外指標まで移動させます。たとえばピントを合わせた結果が距離目盛で 25 だったとすれば、この 25 の目盛を R の位置までずらせます。目測や巻尺で距離を合わせる場合は、距離指標の代わりに赤外指標を基準にして距離目盛を合わせます。



赤外指標は 8000 \AA 程度の波長に最大感度を持つフィルムと赤外フィルター (たとえばコダック IR 185 フィルムとラッテン 87 フィルター) とを用いる場合を標準にして目盛っております。赤末部を使用する場合、たとえばプラス X, あるいは一般のパンクロフィルムにラッテン 25 程度の赤色フィルターを添用する際などには修正移動を $1/3$ 位とするのが適当です。

レンズの泡は明るさを、何百分の一か、何千分の一か減らすこととなりますが、この程度では撮影上全然問題になりませんし、また像の鮮鋭度にも何等影響ありません。高級レンズに使われる特殊ガラスは、気泡の残存を免かれませんが、高級レンズの製造上やむをえないものとして御了承願います。

キヤノンの構え方

撮影の際、カメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真をとるのに最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って図のいずれかのように持ち、ファインダーを覗いてピント合わせをし、更に撮影範囲をきめた後、静かにシャッターを切ります。その際特に次のことが大切です。

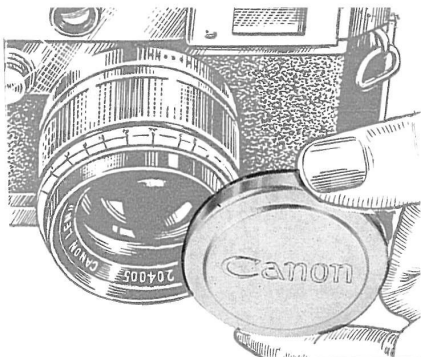


1. 両手は努めて深くカメラを握り込むこと。
2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること。
3. 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること。

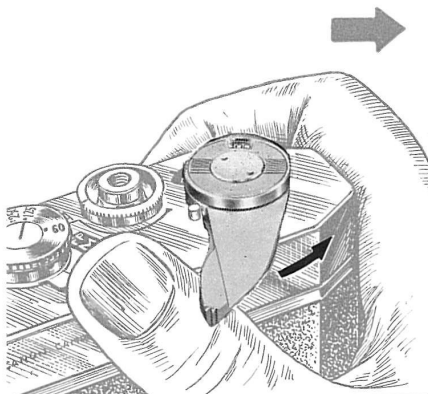
- シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。
- 親指先がシャッターダイヤルに触れないように注意して下さい。
- T.B. はもちろんのこと、1/30秒よりもおそいシャッターでは三脚とケーブルリリースを併用の方が安全です。
- レンズフードは写角外の有害な光線を遮って、よい写真をとるために必要です。



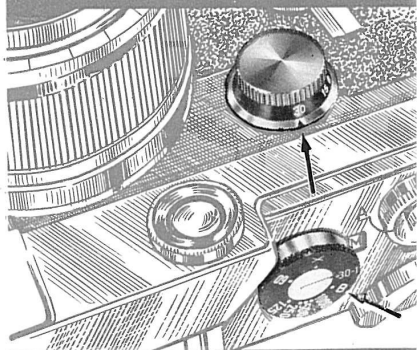
撮影の手順



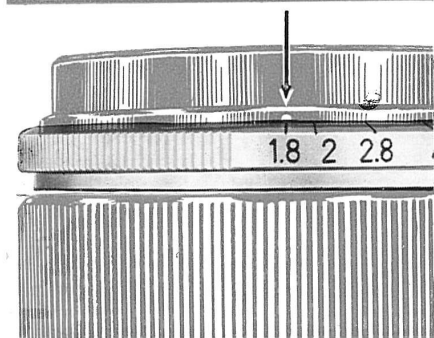
1. レンズキャップを取りはずす



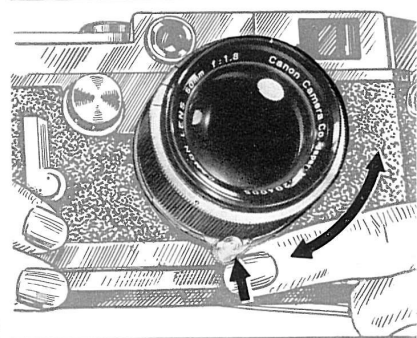
2. 巻き上げをする



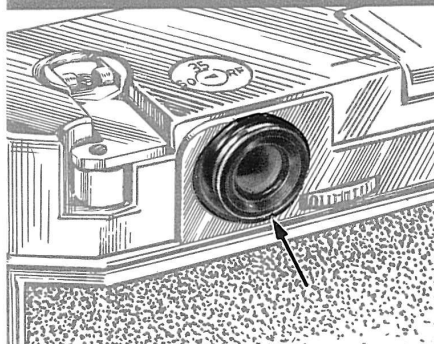
3. シャッター速度をきめる



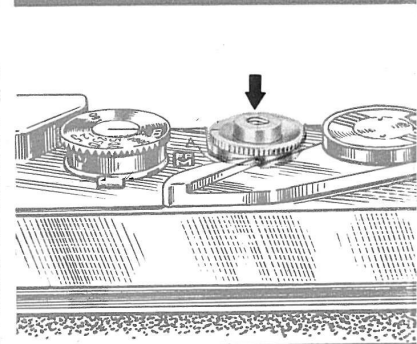
4. 絞り目盛をきめる



5. 被写体にピントを合わせる



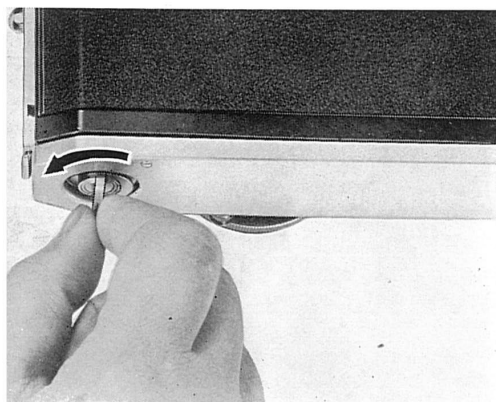
6. 構図をきめる



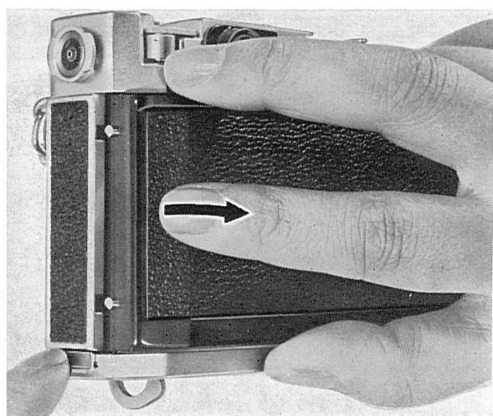
7. シャッターボタンを押す

フィルムの装填

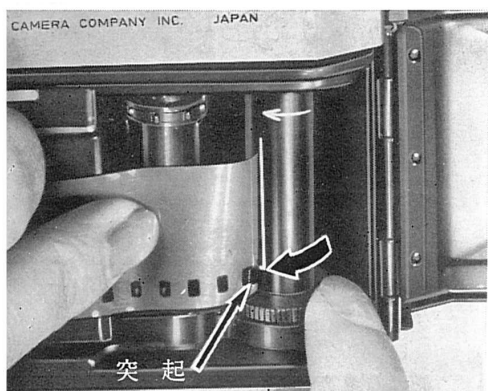
フィルムは市販の 35 mm 日中装填用パトローネ（カートリッジ）入りフィルムでも、キヤノン専用マガジンVに入れたものでも同様に用いられます。旧型マガジンは用いられません。



1. 底部のマガジン開閉つまみを引き起して左回しに半回転します。



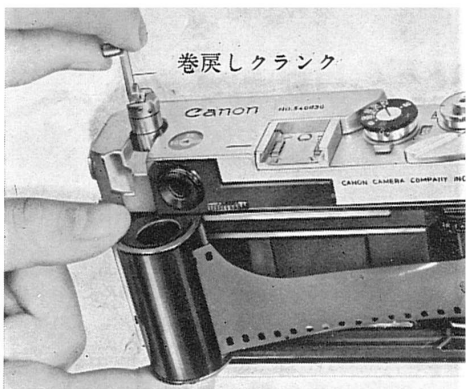
2. 裏蓋止め金を引き、裏蓋に指をかけてあけます。



3. フィilm端を巻き取りスプールの溝に十分差し込み、スプールのつばを矢の方向に少し回しながら溝ぎわの突起をフィルムの孔にかけます。

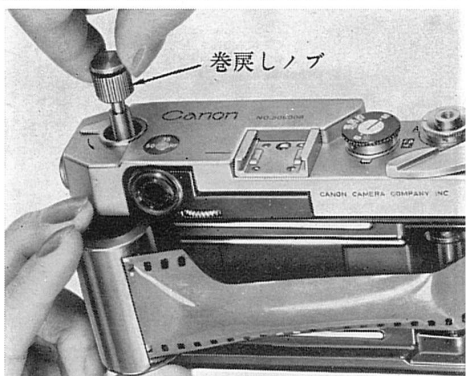
VL の場合→

4. 巻き戻しクランク又は巻き戻しノブを充分に引き上げた後、パトローネまたはマガジンをカメラ内に収め、再び巻き戻しクランクの軸又は巻き戻しノブを元のよう押し込みます。

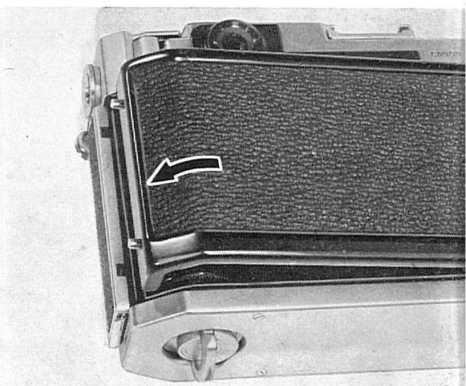
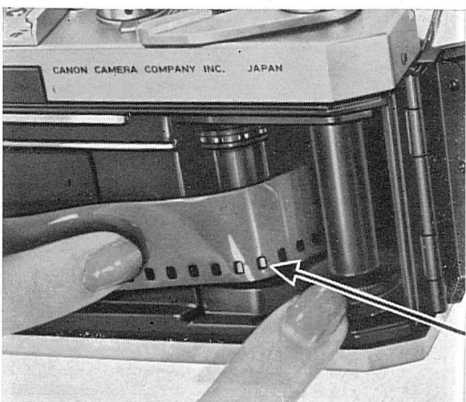


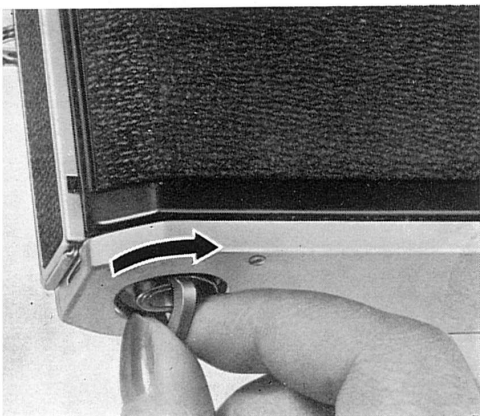
VL-2 の場合→

5. その際フィルムの孔をスプロケットの歯に完全にかかけ、またフィルムにたるみがあれば巻き戻しクランク又はノブを矢印方向に回してたるみを取っておきます。

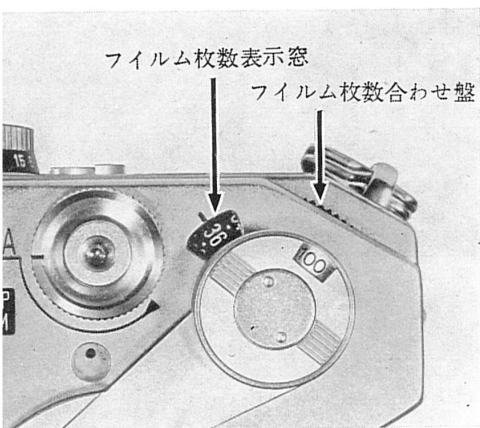


6. 裏蓋を閉じます。巻き戻しクランクは折り畳んでおきます。





7. 最後にマガジン開閉つまみを右回しに回して元通りに収めます。裏蓋を閉じる前にマガジン開閉つまみを回してはなりません。



8. レンズキャップをかぶせたまま、二枚だけ空写しをします。次に指先を枚数合わせ盤の縁にかけて回しながら、枚数表示を装填フィルムの全枚数に合わせます。次に巻き上げをすると1枚目の撮影準備ができます。

フィルム装填良否の確かめ方

巻き取りをするごとに、巻き戻しクランクの軸の中心またはノブが回ります。このことで、フィルムが正しく巻き取られているか、否かがわかりますから、巻き上げの際は、いつもこれを見るようにお勧めします。もし回らなければ、フィルムの端がスプールから抜け出しているか、フィルムの孔がスプロケットからはずれていることとなります。その場合は、21頁のフィルム巻き戻しの要領で、フィルムを一旦取り出して装填し直さなければなりません。

フィルムタイプ表示窓

使用フィルムの感度や種類を表示しておくもので、円盤の上面にある刻みの部分を指先で押しながら回すと小窓に表示が現われます。黒字は普通フィルム用で ASA 感光度、青点、赤点はカラーフィルム表示で、青点は白昼光カラーフィルム用、赤点はタングステン光カラーフィルム用です。

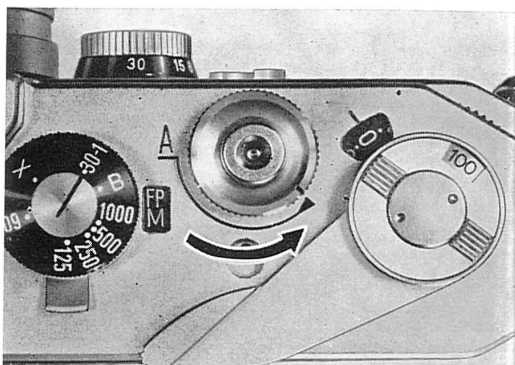


- フィルムをカメラに装填する場合には、直射日光下を避け、レンズキャップをかぶせたまま行うことが大切です。

フィルムの巻き戻し

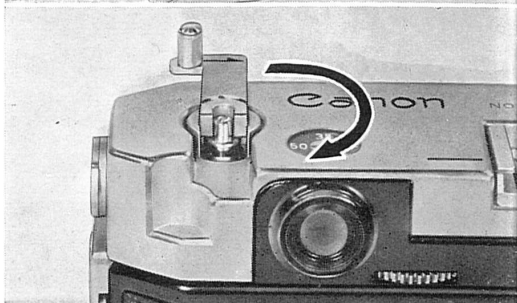
フィルムが終りになると巻き上げに抵抗を感じますから、巻き上げを中止し、次の順序によってフィルムを元のカートリッジ（マガジン）に巻き戻します。

1. 巻き戻しリングをAと反対の方に回し、



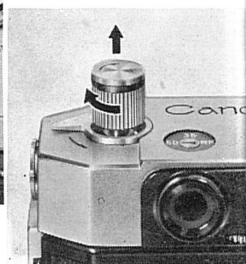
2-1. VL の場合

巻き戻しクランクを起して矢印の方向に回します。

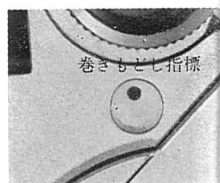


2-2. VL-2 の場合

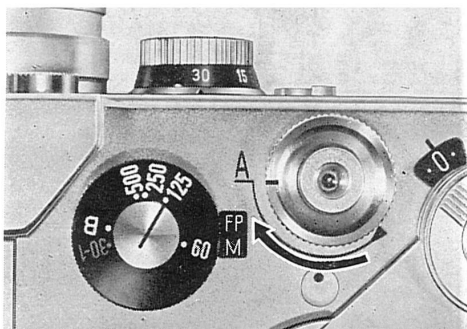
巻き戻しノブの止めレバーを矢印の方向に動かして、巻き戻しノブを浮き上げ、これを更に引き上げた後、矢印の方向に回します。



巻き戻し中フィルム巻き戻し指標の動きに注意し、その円形運動が止ったならば直ぐ巻き戻し操作を中止します。



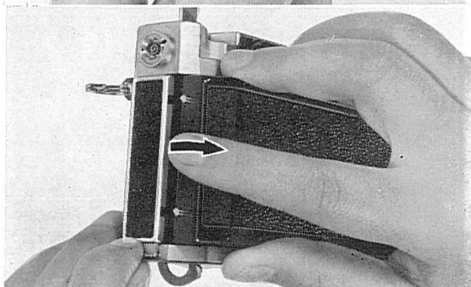
3. 巻き戻しリングをAにもどします。



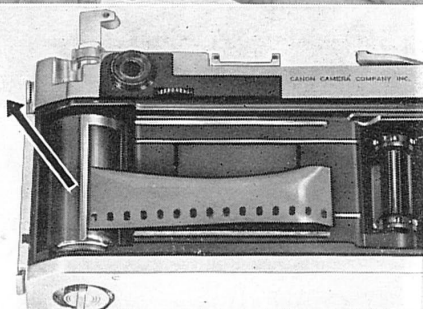
4. マガジン開閉つまみを左回しに回した後



5. 裏蓋止め金を引いて裏蓋を開きます。



6. 巻き戻しクランクまたはノブを充分に引き上げた後、カートリッジ(マガジン)をカメラから取り出します。



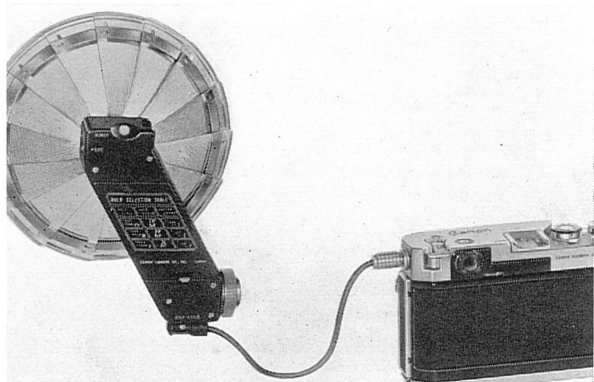
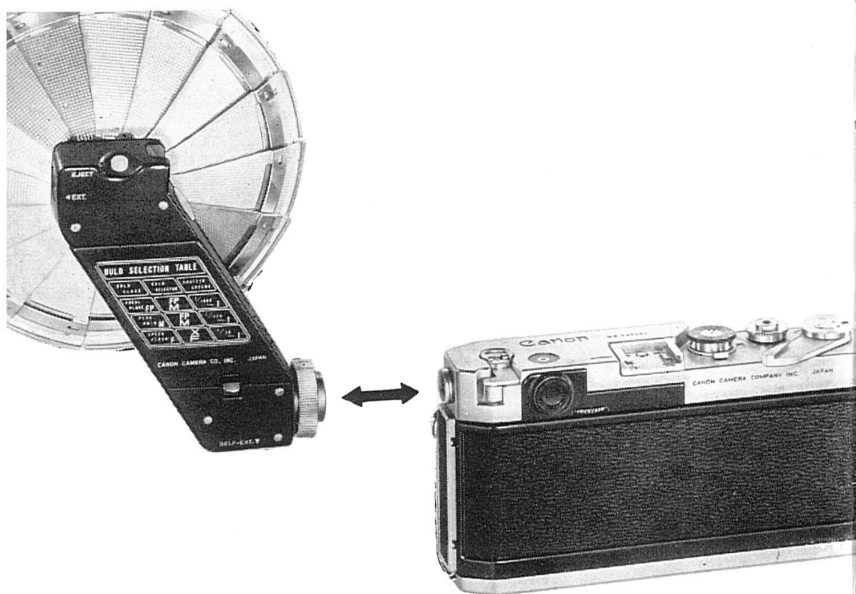
- 巻き戻しの際はレンズキャップをして下さい。
- フィルムが終りにになっているのに、無理にその巻き上げをすると、巻き戻しができなくなって、暗室でフィルムの取り出しをしなければならなくなる場合がありますから御注意下さい。

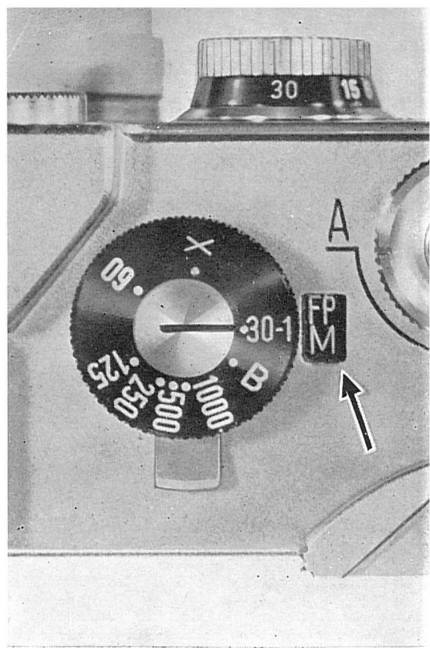
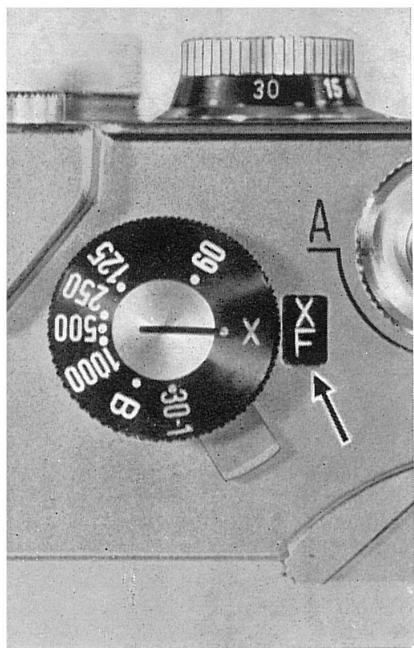
フラッシュ同調

フラッシュユニット直結ソケットにキヤノンフラッシュユニットVを接続しておくと、シャッターボタンを押した際、これに連動して閃光を発し、各シャッター速度でフラッシュ同調撮影をすることができます。

同調セレクター

フラッシュ撮影の場合、使用バルブに応じて同調セレクターを、そのレバーによって $\frac{FP}{M}$ または $\frac{X}{F}$ のいずれかにセットしておくと、シャッター速度に応じて発光時期が自動的に微細に調節され、次頁の表のように簡単に各種バルブおよびスピードライトを使い分けることができます。





バルブ種類	同調セレクター	シャッター速度
FP 級 バルブ	FP M	VL 1/1000~1秒
		VL-2 1/500~1秒
M 級 バルブ	FP M	1/125~1秒
F 級 バルブ	X F	1/30~1秒
スピードライト	X F	X (低速ダイヤルは 30)

1/15~1秒では FP/M でも X/F でもさしつかえありません。

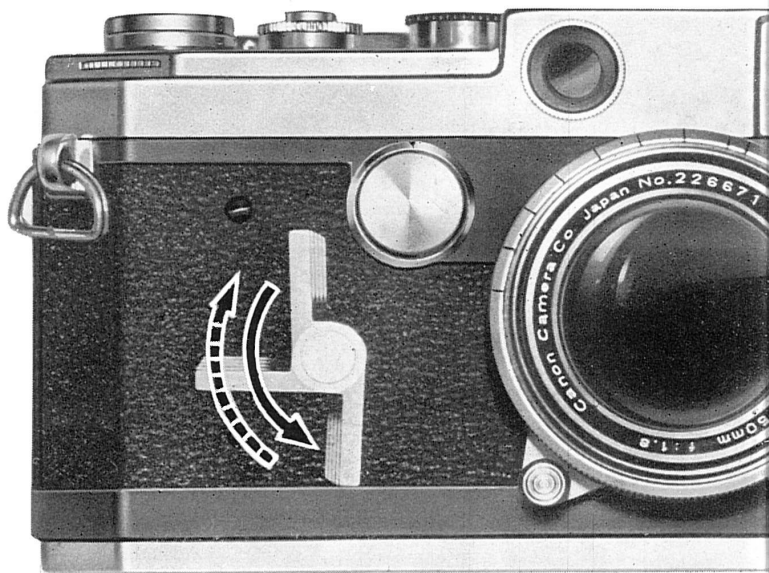
フラッシュ撮影の場合にもレンズフードは必要です。

セルフタイマー

シャッターを普通に巻き上げ、セルフタイマーのレバーを矢印の方向に巻き上げた後、シャッターボタンを押すと、まずセルフタイマーがはたらき、約10秒おくれてシャッターが作用します。

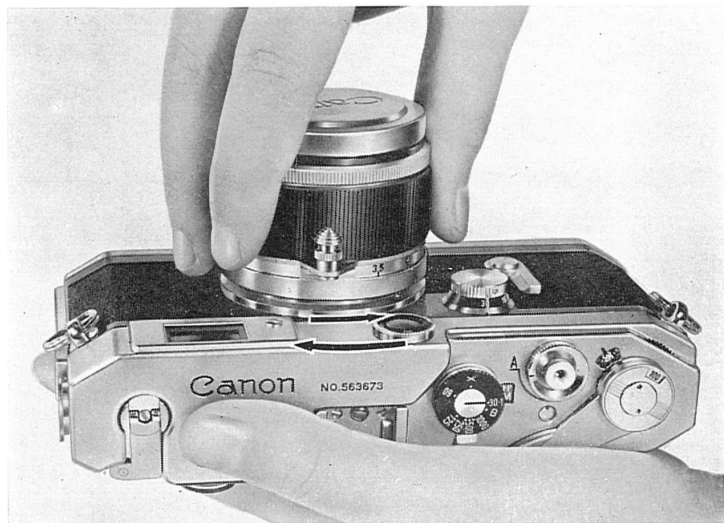
レバーは巻き上げの位置に従っておくれる時間の調節ができますが、約三分の二以上巻き上げないとシャッターが作用しません。

- シャッターの巻き上げとセルフタイマーの巻き上げとはいずれが先でもさしつかえありません。



カメラを海水に落したときは時を移さず清水で洗って、あり合わせの油に漬け、それから修理にお出し下さい。グズグズしていると腐蝕のため回復不能になります。

レンズの交換



カメラからレンズをはずすには、カメラを背部から平らに持ち、他方の手でレンズの基部をつかんで左回し（小矢印方向）に回します。

レンズを取り付けるには、レンズ底蓋を取り去った後カメラを前と同様に持ってレンズを静かにねじ込みます。ねじ込みの始め、特にレンズを左回しにわずかに回しますと、ねじが合いますから、あらためて右回し（大矢印方向）に回して十分止まるまでねじ込みます。レンズ交換の際、無限遠ストッパーはロックしたままでさしつかえありませんが、長焦点および望遠レンズではヘリコイドを伸び出させておく方が距離計のために良いことです。

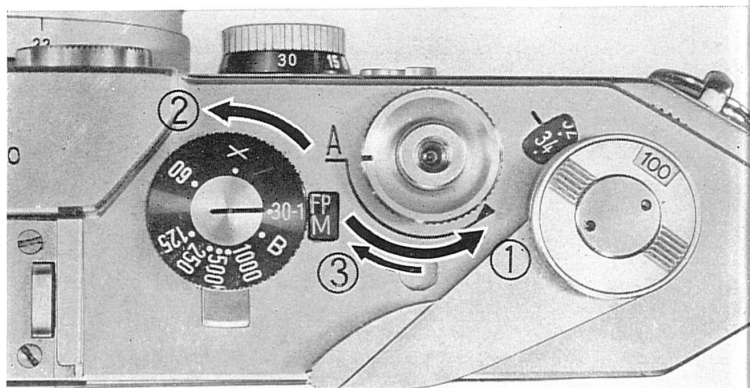
- レンズの交換をするときはカメラを強い光線に向けてはなりません。別のレンズを、すぐ取り付けられるように用意しておいて、なるべく光線の弱い場所、もしなければ自分の身体の陰などで、手早く交換取り付けを行います。

二重露出

先ず巻き戻しリングを巻き戻しの場合と同様にAと反対の方向に回し、次に高速シャッターダイヤルを左回転に止まるまで回して戻らないように押えたまま、別の手で巻き戻しリングをAの位置に戻した後、高速ダイヤルから手を放します。こうするとフィルムを送らずにシャッターだけ巻き上げることができます。この方法を繰り返せば同一フィルム上に幾重露出でも与えることができます。

レンズキャップをかぶせたまま誤ってシャッターを切った場合も、この方法でシャッターの巻き上げをすれば、フィルムを無駄にしないで済みます。

高速ダイヤルを回す際は普通の調節の場合と違って、これを引き上げないように、押し付けぎみに回さなければなりません。



極寒地では、カメラは撮影時以外直接外気に触れさせないように保護し、また手速く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずにすみます。撮影に取り出す場合も徐々に外気に触れさせませんと、水分の凝結でレンズ面が曇り、撮影のできないことがあります。

簡易露出表

被写体	季節	春	夏	秋	冬
	月	3, 4, 5	6, 7, 8	9, 10, 11	12, 1, 2
海, 山, 雪景 展開した風景	f : 16	f : 16	f : 16	f : 11	
	1/250	1/250	1/250	1/250	
普通風景	f : 11	f : 16	f : 11	f : 8	
	1/250	1/250	1/250	1/250	
明るい 街路スナップ	f : 8	f : 11	f : 8	f : 8	
	1/250	1/250	1/250	1/125	
戸外集合人物	f : 8	f : 8	f : 8	f : 5.6	
	1/125	1/250	1/125	1/125	
戸外人物大写	f : 5.6	f : 5.6	f : 5.6	f : 4	
	1/125	1/250	1/60	1/60	
日影人物	f : 4	f : 4	f : 4	f : 4	
	1/125	1/250	1/60	1/30	

天候	快晴	薄曇	普通曇	極曇
標準	標準	2倍	3倍	4倍

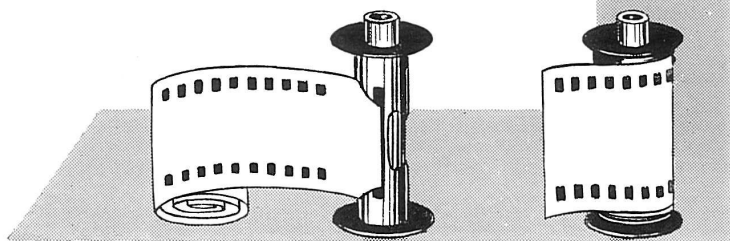
時刻	午前10時 ～午後2時	午前9～10時 午後2～3時	午前8～9時 午後3～4時
標準	標準	2倍	3倍

フィルム	ASA 100 (富士ネオパン SS) (コニパン SS)	ASA 50 (ネオパン S) (コニパン S)
標準	標準	2倍

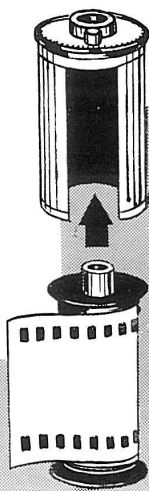
キヤノン専用マガジンとフィルムの詰め方



①



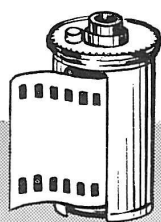
②



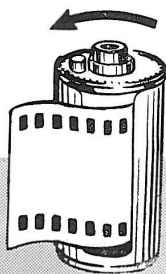
③

- フィルムの取り扱いには安全灯下か暗黒下で行わねばなりません。
- フィルムを入れたマガジンはカメラに装填するとき以外は必ずマガジンケースに取めておいて下さい。
- スプールやマガジンが現像液や定着液などで汚されていると、フィルムにシミを生じたり、マガジンを錆させたりしますから、綺麗に拭いて使用することが大切です。

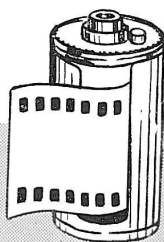
- ① 図のようにマガジンを持って突起を指で矢印の方向に押すとロックがはずれて内筒が少し回ります。内筒と外筒との窓口が合ったとき内筒を引き出します。
- ② フィルムの乳剤面(巻きぐせの内側)を向うむきにして、先端をスプールの軸溝に差し込みます。軸溝は幅の広い方が入口です。フィルムは軸内の戻り止めの作用で戻らなくなるはずですから、少し動かして確かめて下さい。
- ③ 乳剤面を内側にしてフィルムを巻き込み、これを内筒に収めます。乳剤面に指先を触れてはなりません。またゆるく巻いて、後で強く巻きしめるとフィルムに傷がつきます。
- ④ 窓口を合わせて内筒を外筒にはめ込みます。
- ⑤ 矢印の方向に内筒を回します。
- ⑥ パチンと音がして安全装置がかかります。
- ⑦ 長巻きフィルムの場合はフィルムの端を図のように切り取ります。



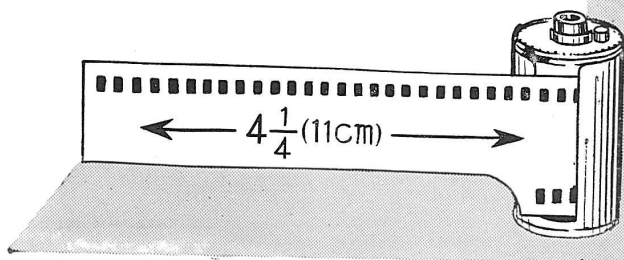
④



⑤



⑥



⑦

カメラの保存手入れ

カメラを保存するのに高温と湿気は禁物です。筈筒など密閉した中に長くおくのも感心しません。特に梅雨期などはなるべく乾いた外気に触れさせるのが望ましいことです。写真暗室や化学薬品の多い室におくのもよろしくありません。万全をはかるならば、罐とかデシケーター（乾燥器）とかにシリカゲルやアドソールなどの乾燥剤とともに入れておくのがよいことです。

カメラの手入れ 野外で使ったカメラは塵埃が付き易く、また雨の日や海浜で使ったときは、気付かないでも水滴や塩分を受け勝ちなので、放置するとシミや錆を生じ、またレンズの焼けや腐蝕の原因になります。このような際は、柔い刷毛で埃を払い、更に乾いた柔い布で丁寧に拭きます。油類は使用しない方が安全です。汗の指で触れるのも禁物です。

レンズの手入れ レンズにはなるべく手を触れないのが安全で、柔い刷毛か羽で軽く埃を払う程度に止めたいたのですが、やむを得ないときは、洗いさらした柔い清潔な綿布を棒に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜても可）を付け、レンズ面の中心より外側に、渦巻きを描くようにして軽く静かに拭きます。拭くそばからアルコールが乾いていく程度が良好です。強く拭いたり、埃の付いているままで拭くと、かえってキズを付けますから注意が大切です。

キヤノン VL, VL-2 にはどのキヤノンレンズでも使用できますが 50mm f: 3.5, 50mm f: 1.9 のような洗胴式レンズを取り付けた場合は速写ケースに納めるときも常に鏡胴を引き出したままにしておいて下さい。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店に御相談下さい。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見に御協力申し上げることができます。

カメラやレンズの番号はいつでもわかるようなお心づかいをお勧め致します。

なお盗難保険の有効期間中のものは保険手続きをおとりください。

キヤノンアクセサリ



ズームファインダー V

キヤノンズームファインダーは実像式のズームタイプである上に正像プリズムを持っていますから、倍率を自由に变化させ得るばかりでなく、像および画面輪廓がきわめて明確な特色をもっています。広角用と望遠用の両種があり、キヤノンのレンジファインダーに連動して自動的にパララックス矯正が行われます。



広角ズームファインダー V

単独で 35mm 50mm のレンズに用いられ別にアタッチメントを付加すると 21mm~28mm レンズに用いられます。



ズームファインダー用 広角アタッチメント

広角ズームファインダーVに付加して 21mm~28mm レンズ用の視界を得ることができます。



ルミフィールドファインダー V

1ブロックのアルパダ式で視野およびマスクがきわめて明確です。倍率 1x、画面外も同時に見えますからスポーツファインダーにも好適です。

距離計連動パララックス矯正式

50mm, 85mm, 100mm, 135mm レンズ用各種



専用ファインダー V

広角の視野に適した専用ファインダーで、距離計連動パララックス矯正式です。

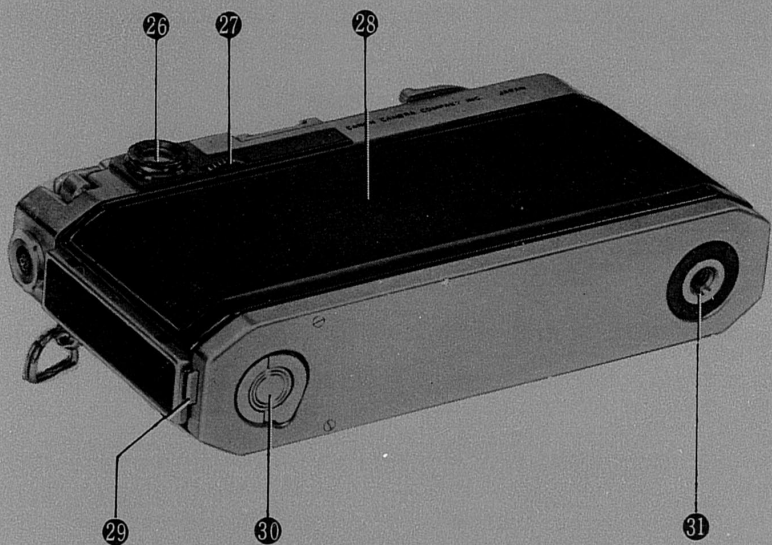
25mm, 28mm, 35mm レンズ用各種



サイドライティングユニットV

フラッシュユニットVおよびIIIの増灯用、キャパシター内蔵式、小形のプラスチックケース内に折り畳み、引き起したケース蓋は握り柄あるいは支持台に兼用されます。

キヤノン VL, VL-2 のアクセサリはカメラホルダーを除き、キヤノン VT デラックスと全部共通です。

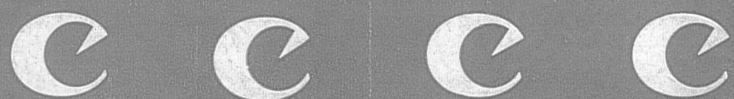
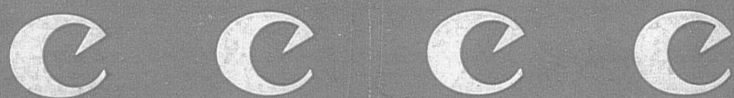


- ②⑥ レンジ・ビューファインダー覗き窓…………… 9
- ②⑦ レンジ・ビューファインダーセレクター……………10
- ②⑧ 裏 蓋……………17
- ②⑨ 裏蓋止め金……………17
- ③⑩ マガジン開閉ツマミ……………17
- ③① 三脚取り付けネジ孔

キヤノンレンズ群

- 25 mm f: 3.5
- 28 mm f: 3.5 II
- 28 mm f: 2.8
- 35 mm f: 2.8 II
- 35 mm f: 1.8
- 50 mm f: 2.8 II
- 50 mm f: 1.8 II
- 50 mm f: 1.2
- 85 mm f: 1.9
- 85 mm f: 1.5
- 100 mm f: 3.5
- 135 mm f: 3.5
- 200 mm f: 3.5
- 400 mm f: 4.5
- 800 mm f: 8





キヤノンカメラ株式会社

東京・大田区下丸子町

